

しんわルネッサンス様 敷地・周辺野鳥調査 年間報告書 2024.4月～2025.1月

2025.2.21

太平電機株式会社
ECOひいきプロジェクト
代表取締役社長
樋口公平



メジロが南西植栽の頂上でさえずる



地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

KANAGAWA SDGs PARTNER
神奈川県 | SDGs未来都市 私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。



キイノクス

太平電機(株) ECOひいきプロジェクト

© 環境省

調査の目的

- 50周年記念の一環として、野鳥調査をご依頼いただいた。野鳥を通して敷地の外周に苗木から育てて植栽した木々の自然と周辺の自然環境を明らかにしていくことを目的とした。

①野鳥の種類、数を明らかにする

②野鳥の環境利用（採食、越冬、繁殖など）を明らかにする

③敷地内の利用を明らかにする



調査時使用したもの

①調査方法と調査場所

- ・外周ラインセンサス調査※

※外周野鳥は敷地内と行き来する可能性が高いため調査する

- ・外周3点の定点調査

②調査時期と時間

- ・2024.4月7月9月2025年1月合計4回

外周ラインセンサス調査時間毎回約1時間

- ・南側と北側4か所の定点調査毎回約1時間

③調査用具 双眼鏡8倍、望遠鏡20倍、カメラ500mm、録音機

- ・自動車1台訪問用
- ・望遠鏡20倍
- ・三脚
- ・500mm 一眼レフカメラ
- ・双眼鏡8倍
- ・記録用紙
- ・録音機
- ・筆記具、携帯電話、飲み物持参。



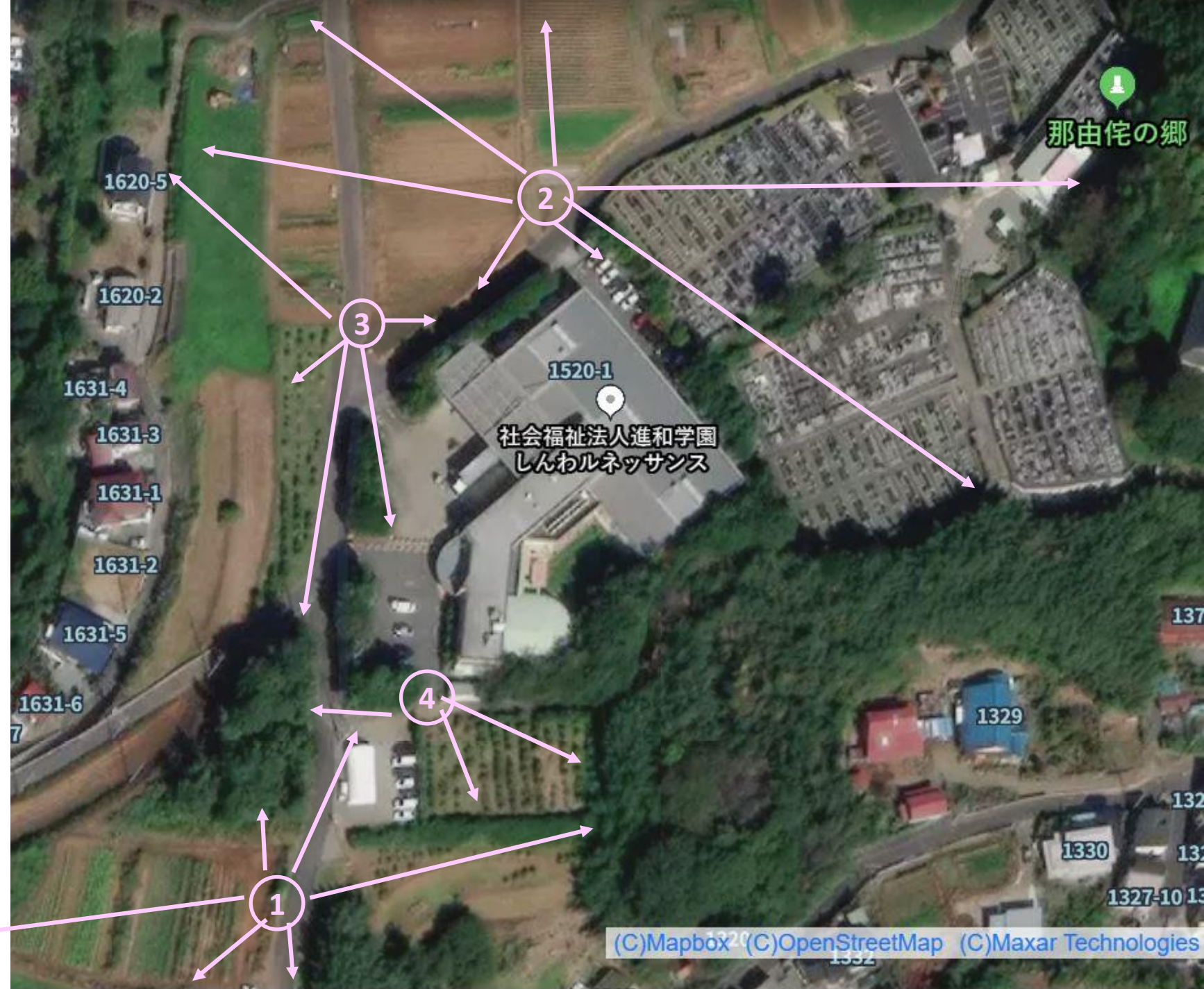
敷地＋周辺の野鳥 外周ラインセンサス調査位置

- ・ 場所 敷地外周を一周しながら調査した。
- ・ (スタート)南西角→①南ブルーベリー畑→②南植栽と竹林間→③東墓地側→④北畑側→⑤西ブルーベリー畑→(ゴール)
- ・ ラインセンサス法→時速2キロ程度の徒歩、前左右上空に出現する野鳥の姿と声を確認し記録。
- ・ 敷地内と外部の両方の野鳥の種類、数、行動を記録
- ・ 種類ごとの合計数を出せる調査方法です



定点調査位置

- 調査定点に立ち、敷地内にある野鳥、敷地外周周辺の野鳥、それら上空を飛翔する野鳥を調査した。
- 野鳥の種類、行動を声、姿を確認し記録した。
- 合計数は記録とならないが、同時最大確認数は記録となる
- 定点は①南西角②北側畑③北西角④南ブルーベリー畑の4か所とした。



出現種リスト

	全出現科名	全出現種名	敷地内確認	留/夏/冬/旅	繁殖	敷地内繁殖	採餌	敷地内採餌	渡り通過	希少性	
累計種数	通 期									国レッドデータ種	県レッドデータ種
1	キジ科	キジ		留	囀						
2	ハト科	キジバト	○	留	囀		4,9,1	4,9,1			
3	サギ科	コサギ		留							
4	カッコウ科	ホトトギス		夏	囀						
5	アマツバメ科	ヒメアマツバメ		留			7月				
6	タカ科	トビ		留							
7	タカ科	ツミ		留	幼						繁殖期絶滅危惧Ⅱ
8	タカ科	オオタカ		留						準絶滅危惧	繁殖期絶滅危惧Ⅱ
9	キツツキ科	コゲラ	○	留			4月	4月			
10	キツツキ科	アオゲラ		留	囀						
11	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○	留	幼		7,9	7月			
12	モズ科	モズ	○	留			9,1	1月			繁殖期減少種
13	カラス科	ハシボソガラス	○	留							
14	カラス科	ハシブトガラス	○	留	幼						
15	シジュウカラ科	ヤマガラ	○	留			1月	1月			
16	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	留	囀		1月	1月			
17	ヒバリ科	ヒバリ		留	囀						繁殖期減少
18	ツバメ科	ツバメ	○	夏	幼		7月	7月	4,9		繁殖期減少
19	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	留			4,7,9,1	7,9,1	4月		
20	ウグイス科	ウグイス		留	囀						
21	メジロ科	メジロ	○	留	囀	囀					
22	ムクドリ科	ムクドリ	○	留			9月	9月			
23	ヒタキ科	シロハラ	○	冬							
24	ヒタキ科	ツグミ		冬					4月		
25	ヒタキ科	ジョウビタキ	○	冬			1月	1月			
26	スズメ科	スズメ	○	留	幼		1月	1月			
27	セキレイ科	ハクセキレイ	○	留			1月				
28	セキレイ科	セグロセキレイ		留			4月				繁殖期減少
29	アトリ科	カワラヒワ	○	留							繁殖期減少
30	ホオジロ科	ホオジロ		留							
31	ホオジロ科	アオジ	○	冬			1月	1月			6
合計	22科	31種	18種	留25夏2冬4	13種	1種	15種	12種	3種	1種	7種

1年間の調査まとめ

【年間で31種類】の野鳥が確認できました。そのうち半分以上の18種は敷地で確認。これだけの種類が生息できていることは素晴らしいです

【留鳥が主】で、24種。夏鳥2種、冬鳥4種とわかりました。

【渡り鳥の通過地点】神奈川県南部にあり、高台にあることから、春に北上する野鳥と、秋に南下する野鳥がこの地を通過している事がわかりました。

【希少種は7種】とくに生態系の頂点の猛禽類として、ツミ、オオタカが確認されました。両種は小中型の鳥類を捕食するため、それらの生息環境が整っていると言えます。また7種すべてが繁殖期のレッドデータとなっており、重要です。

【繁殖行動は13種】と全体の1/3を占めています。周辺の環境が良いことが言えます。敷地内の繁殖種は1種と少なく、敷地内で今後繁殖しやすい工夫が望まれます。

【餌を捕った記録は15種】で全体の半数となりました。そのうち敷地内で餌を捕った記録は12種で、80%と非常に多いことがわかりました。外周の植樹帯とブルーベリー畑が主な餌場となっています。

【水飲み、浴び】は確認できませんでした。周辺にも敷地内にも水場がないためです。

提案①水場 バードバスと、ビオトープ池

- 野鳥は水を飲むことは人が水を飲むことと同様に重要なことです。また、水浴びは寄生虫を取ったり、羽を清潔に保つ目的で頻繁に行います。飛ぶための羽を守ることは命に直結する重要な行動です。
- 周辺と敷地内、ブルーベリー畑内には水場がありません。
- 猛暑の時期、冬の乾燥時期は特に水が必要です。これらを支援することが野鳥に優しい環境経営につながります。



バードバス(水飲み、水浴び用)
浅い皿やつくばいが利用可能
貴社の焼き物でもよいです。



ビオトープ池(水飲み、水浴び、
水生昆虫、カエルなどの生息)

土を浅く掘り、ゴムシートなど
を敷き、土を戻す。

トンボの産卵、水生昆虫の発
生、カエルの産卵などが行わ
れ、生物の生息空間が生まれ
ます。

提案②冬季の給餌

- 【考え方】
- 冬季は昆虫など高カロリーの餌が少ないこと、高い体温(約42℃)を保ち続けるため、カロリーの補給が必要ですが、都市部は自然が人によって減らされたため、野鳥が越冬しにくい環境になっています。
- 冬の間だけ給餌をすることは野鳥を守ることに繋がります
- 春になり昆虫が出現すれば給餌を中止し、自然に餌をとるようにします。



バードフィーダー、ミカンとシジュウカラ

【ヒマワリの種】

バードフィーダーを利用し、ヒマワリの種を給餌します。
シジュウカラが利用します。

調査では出現率が75%と高く、敷地内にも来るため利用する可能性が高いです。

割れて下にこぼれた種はキジバトやスズメが利用します。

【ミカンなど柑橘類】

枝に挿すことで、メジロやヒヨドリが利用します。どちらも調査では75%,100%と高く、利用する可能性が高いです。

※バードフィーダー、ヒマワリの種は日本鳥類保護連盟で販売しています。

提案③実の生る木の植栽

【考え方】

- 本来自然界には実の生る木があり、野鳥が利用しています。都市部では減り、特に冬季に餌を捕りにくくなっています。
- 給餌よりも自然に近い状態で実を野鳥が利用し、野鳥を支援することができます。
- それらの木に付くアブラムシや様々な昆虫も野鳥が利用し、生態系のレベルが高まります。
- 実 は 人間 も 利用 できる ので、土地から得られる恵みを野鳥と分かち合うことができます
- 植樹することで二酸化炭素の吸収に繋がります。



柿の実を食べるメジロ

貴社で植樹した樹種に加え、下記もご検討ください。

【カキノキ】

＜生息確認種＞スズメ、メジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、シジュウカラ、キジバト、ムクドリ

＜誘致可能種＞オナガ、ウグイス、ツグミ、コゲラ

【ミカンなど柑橘類】ミカン、レモン、ユズ、サンショウなどメジロ、ヒヨドリなどが利用します。またアゲハチョウの幼虫の食草であり、ナミアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハなどが利用し、それらの幼虫を野鳥が子育てで利用します。

提案④巣箱掛けの提案

敷地内の繁殖種が少ないため、巣箱の提案をいたします。

- 【考え方】
- 自然界には森林の至る所に木の洞があり、樹洞で繁殖する野鳥が巣として利用しています。
- 都市部では巣に利用できる木と洞が激減し、繁殖できる野鳥の数が限られています。
- 巣箱はその支援の一つで、繁殖が行われることで次世代に命をつなぐ支援となります。
- 繁殖には雛への給餌として近隣で青虫や毛虫を大量に捕るため、植木の害虫駆除にもつながり、人との共存になります。

貴社で巣箱を利用する可能性のある野鳥

【シジュウカラ】【ヤマガラ】

【スズメ】

【ムクドリ】

※それぞれ穴の直径や最適な取り付けの環境や高さがあります

※日本鳥類保護連盟で販売しています。



スズメが繁殖した巣箱

提案⑤日本鳥類保護連盟のバードピア認定を目指しては

これだけ種類が居て、採餌が行われていれば、確実に認定が取得できます。

【野鳥の暮らせる庭の認定制度です。】

- 弊社はバードピアの認定協力企業です。
- 樋口は日本鳥類保護連盟公認バードピアアドバイザーです
- 申請書類を作成代行いたします。(1万円)
- 更新審査や手続きなどはなく、初回の登録料1500円のみです。

